

計画体系コード	5-3-3		事業名	路面電車活用方針検討調査
担当	市民まちづくり局総合交通計画部公共交通課 岩瀬 211-2492			
全 体 計 画				
事業内容	「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」によって提案された、活用の基本的な方向性について、具体的な整備内容や費用対効果、その実現を可能とする事業経営のあり方等を明らかにするために必要な、調査・検討を行う。 検討にあたっては、市民はもとより関連する事業者、行政機関等と共通認識を図りながら議論を行い、その結果を踏まえて事業実現の可能性や実施内容等を検証し、事業化を判断するために必要な基本計画(案)を平成21年度までにまとめる予定。 その後、パブリックコメントを実施したうえで、札幌市としての政策決定を行うが、この結果、事業を実施する場合は、国庫補助事業として必要な手続きとしてLRTプロジェクト推進協議会の設置及び事業計画(総事業費、事業年次、資金計画等)の策定を行う予定。		<年度別の事業内容>	
			[平成19年度] ・事業化の判断に必要な調査・検討 [平成20年度] ・事業化の判断に必要な調査・検討 [平成21年度以降] ・基本計画(案)の策定 ・パブリックコメントの実施 ・基本計画の策定 ・事業計画の策定	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」からの提言を踏まえ、民間企業などとの連携による既存線の収支改善や沿線の魅力向上に向けた具体的・実験的な取り組みを継続的に実施した。 また、札幌市が今後事業化を判断するために必要な検討項目や検討の進め方を示した「さっぽろを元気にする路面電車活用の基本計画検討フレーム」を7月に公表し、これに基づき必要となる詳細な検討を実施した。 ○事業化の判断に必要な調査・検討の委託費 20,478千円 ○沿線活性化に向けた連携事業への負担金 274千円 ○基本計画検討フレームの印刷等 161千円		路面電車活用の方向性について、沿線地域イベントにおいて、パネルや映像等を活用して情報提供を行った。 また、路面電車の基本計画(案)策定に向けた取り組みとして、利用者の利用目的、乗降停留場の箇所、利用人数など、詳細な利用実態調査を実施し、既設線の詳細な利用実態を把握した。 ○路面電車活用に向けた基礎調査・検討の委託費 27,542千円 ○沿線活性化に向けた連携事業費 696千円	
事業内容	平成21年度事業内容(予算)		平成22年度事業内容(予算)	
	路面電車沿線の活用化や都心部における新たな集客交流拠点の整備計画等を踏まえ、まちづくりと一体となった路面電車の整備内容、費用対効果、事業経営等について検討を行う。 これらの検討結果を基に、事業実現の可能性や実施内容を検証し、関連部局との調整を図った上で、事業化を判断するために必要な基本計画(案)をまとめ、路面電車の活用の方向性を示す予定。 ○基本計画策定検討 8,000千円 ○路面電車経営分析 3,400千円 ○市民議論等 6,600千円			
模件数等				

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	5-3-3		事業名	路面電車活用方針検討調査		
達成目標の状況						
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
基本計画(案)の策定	検討	調査・検討	調査・検討	策定		策定 (21年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)						
■ 市民との連携、市民参加 既設線の魅力向上に向けた取り組みを、学生、都心商業者、沿線施設管理者などとの連携・参加により継続的に実施している。 ■ 企業等との連携・協働 [資金協力] 沿線の活性化に向けた連携事業等において、都心商業者等からの協賛を受けている。 [人材協力] 沿線の活性化に向けた連携事業等において、学生等がボランティアとして参加している。 [情報協力] 市電フェスティバルのイベント等を利用した情報提供を実施している。 [その他の協力] 沿線の活性化に向けた連携事業を、沿線施設管理者や都心商業者等と協働で実施している。 ■ 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 沿線の活性化に向けた連携事業の実施は、民間企業等と共同で協議会を設置しており、様々な主体が参加できるようにしている。						
評 価 (成 果)			課 題			
平成19年度は、「さっぽろを元気にする路面電車活用の基本計画検討フレーム」を公表するとともに、市電フェスティバルやパネル展等様々な機会を利用して情報提供を実施した。 また、路面電車活用の方向性を示すため、都心部でのまちづくりでどのように活用すべきかや、自動車交通への影響を把握するために必要な調査・検討を行った。 平成20年度は、市電フェスティバルでのパネル展示等、情報提供を実施するとともに、既設線利用者の利用目的や乗降停留場の箇所、利用人数等、詳細な利用実態などを把握調査を行った。 平成21年度は、既設線の活用手法の検討を継続して行うとともに、まちづくりと一体となった整備内容、費用対効果及び事業手法等を検討し、基本計画(案)をまとめる予定。			既設線の活用手法の検討と共に、都心部における複数のまちづくり計画と一体となった整備内容、費用対効果、事業採算性等について、さまざまな検討が必要。			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向						
平成21年度は、前年度に引き続き、既設線の収支改善や沿線の魅力向上など、既設線の活用手法の検討を行うとともに、都心部におけるまちづくりと一体となった整備内容、費用対効果及び事業手法等に関する調査・検討を実施し、基本計画(案)としてまとめる予定。						

(単位:千円)

計画体系コード	5-3-3		事業名	路面電車活用方針検討調査		
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	21,000	21,000	15,000	10,000	67,000
	財国・道支出金	0	0	0	0	0
	財源市債	0	0	0	0	0
	財源内その他	0	0	0	0	0
	財源内一般財源	21,000	21,000	15,000	10,000	67,000
予算	事業費	21,000	19,000	18,000	-	58,000
	財国・道支出金	0	0	0		0
	財源市債	0	0	0		0
	財源内その他	0	0	0		0
	財源内一般財源	21,000	19,000	18,000		58,000
実績	事業費	20,913	28,238	-	-	49,151
	財国・道支出金	0	0			0
	財源市債	0	0			0
	財源内その他	0	0			0
	財源内一般財源	20,913	28,238			49,151
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				100.2%
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
[20年度]						
路面電車について、今後の計画や収支改善等に向け、各停留場での利用人数や利用目的など、詳細な利用実態調査を実施する必要が生じたため、予算額との差異が生じた。						
[21年度]						